

資料目録

古城戸茂八郎関係資料目録

【凡例】

1. 本目録は、太宰府市公文書館が寄贈を受けた古城戸茂八郎関係資料の目録である。
2. 字体は原則として常用漢字を用いたが、一部の固有名詞及び原資料からの引用については、原資料の表記に従った。
3. 記載の文字が欠損及び不明の場合は「□」とした。誤記と思われる文字については「[マ]」とした。推測できる文字については「[]」で補って記した。
4. 目録の記載項目は番号、資料名、年月日、作成・宛所、形態とした。各項目の詳細については次の通りである。
 - (1) **番号** 原則として、資料の原秩序に基づき番号を与えた。封筒等で一括された資料は、枝番号を用いて示した。なお、資料群全体に番号を与えた後に太宰府市文化ふれあい館が寄贈を受けた分を除いたため、本目録では番号に抜けが生じている。文化ふれあい館所蔵分は目録を別にして掲載した(29頁)。
 - (2) **資料名** 資料に記載された名称をゴシック体で示した。記載がないものは〔 〕を付して仮題とした。必要な場合は内容を補足し、明朝体で記した。
 - (3) **年月日** 算用数字に改めた。内容から推測できるものについては〔 〕を付した。年代については、〔 〕内も年号で記した。
 - (4) **作成・宛所** 資料の授受関係は矢印「→」を用いて示した。記載は無いが内容から推測できるものは〔 〕を付した。不明の場合は空欄とした。
 - (5) **形態** 文書資料については、一紙、罫紙、書冊等に分類した。文書以外の資料については、材質を記載した。封筒・包紙等のあるものについては、()を付して形態の後に記載した。
5. 本目録は、太宰府市公文書館ホームページ (http://www.city.dazaifu.lg.jp/admin/bunka_sports/kobunshokan/index.html) で公開している。



図1 〔肖像写真〕(資料番号11)
古城戸茂八郎氏。准尉時代のもの。



図2 〔刀剣押形一括〕(資料番号1-4-22)

【解題】

本資料群は、旧太宰府町出身の下士官兵・古城戸茂八郎氏（1900－1939）に関する資料である。古い大型トランクに納められ、ご子息の元で長らく保管されていたが、この度、そのほとんどを当館と太宰府市文化ふれあい館（太宰府市国分四丁目9番1号）が受贈した。

資料群は、主に茂八郎氏の従軍関係のもので構成される。軍人としての茂八郎氏の経歴について寄贈された資料から見ていくと、分かる限りでは次の2期に分けられる。

軍隊での最初のキャリアは「軍隊手牒」（資料1-3-2）により詳細が判明する。茂八郎氏は明治33（1900）年2月に生まれ、大正7（1918）年12月、現役志願して18歳（満年齢、以下同）で歩兵第24連隊補充隊第1中隊に入隊する。同8年11月に上等兵に進級、同9年12月に伍長、同10年10月に軍曹に進級し、同12年3月、23歳で連隊附を免ぜられ福岡連隊区司令部附となる。大正8年中のシベリアでの功績（ハバロフスク・ブラヴェシチェンスク守備）により、同9年には勲8等瑞宝章を受けた（資料3-3）。

資料から分かる次の従軍歴は、昭和12（1937）年から14年にかけてである。同12年9月、37歳で歩兵第124連隊に応召され、第2中隊附准尉として出征、11月に杭州湾（現中華人民共和国）に上陸する。その後、中国の中部から南部に転じ、同14年12月の翁英作戦に第2中隊第1小隊長として参加、同月30日、梅坑（広東省韶関市新豊県）で戦死する（資料1-3-23、1-3-24、1-4-12）。享年39。この間の資料は、出征時の勤務会社（博済無尽株式会社福岡支店）から贈られた激励寄せ書き、茂八郎氏の戦死に対する弔詞や褒章、葬儀に関するものの他、出征中に自身の家族に宛てた手紙が多く遺されている。手紙については、おそらく読み返すための便宜を図ってか文面と封筒が別々のまとまりに分けて保管されていたが、日付等から分かる限り元の組に戻した。日付や封筒の書き込みから、12月9日付の2通（1-3-16-12、1-3-17-12）が戦地からの最終便と思われ、妻宛てには年が明ければ戦地で3度目の正月になる事や、長男に宛てては皆元気に正月を迎えてほしいとの願いが認められている。

従軍関係以外の資料としては、点数は多くないが刀剣に関するものが含まれているのが特徴的である。茂八郎氏は刀剣愛好家でもあり、鑑定免許状（6-2）や、銘の説明・採拓の日付等が書き込まれた刀剣押形（1-4-22、図2）が見られる。剣術についても、大正10年に所属大隊での試合で表彰されており（7-2）、その腕前が知られる。その他には日記が2点あり、年代が判明する昭和9年のもの（1-3-5）には、男児の誕生に関する記述等、軍役に無い時期の茂八郎氏をかいま見ることができる。

〔付記〕 本目録は、公文書館藤田理子が作成した。

番号	資料名	年月日	作成・宛所	形態
1	〔塗箱〕 蓋上書「支那事變従軍 悠久護皇國」、1-1-1～4-39を収納	〔昭和15年〕	→故 陸軍少尉 正八位勲七等功五級 古城戸茂八郎	古 木製(漆塗)
1-1-1	〔勲章〕 「勲六等単光旭日章」、3-2と対	〔昭和14年12月30日〕	→〔古城戸茂八郎〕	金属・布(塗箱)
1-1-2	〔宛名標〕 「南支派遣軍久納部隊 長谷川部隊橋本隊」	〔昭和15年〕	→古城戸茂八郎殿	布・絹糸
1-1-3	〔袱紗〕 染抜「光遜(花押)」、6-2と関連	〔昭和9年〕		絹布
1-2-1	〔勲章〕 「勲八等 白色桐葉章」	〔大正～昭和期〕		金属・布(塗箱)
1-2-2	〔記章〕 「支那事變従軍記章」、4-3と対	〔昭和14年12月30日〕		金属・布(紙箱)
1-2-3	〔記章〕 「昭和 大禮記念章」、4-1と対	〔昭和3年11月16日〕		金属・布(紙箱)
1-2-4	〔記章〕 「大正三年乃至九年戦役従軍章」、4-4と対	〔大正9年11月1日〕		金属・布(桐箱)
1-2-5	〔記章〕 「戦役記念」、4-2と対	〔大正9年11月1日〕		金属・布(桐箱)
1-2-6	〔勲章〕 「功五級金鷄勲章」、3-1と対	〔昭和14年12月30日〕		金属・布(塗箱)
1-2-7	〔勲章〕 「勲七等瑞寶章」、3-4と対	〔昭和2年12月23日〕		金属・布(塗箱)
1-2-8	〔記章〕 「大正三年乃至九年戦役」、メダルのみ	〔大正9年〕		金属
1-2-9	〔記章〕 「明治二十一年 日本赤十字社」、6-1と対	〔昭和3年10月18日〕		金属・布
1-2-10	〔記章〕 「自大正三年 至大正九年 文明擁護之大戦 同盟及聯合國」	〔大正9年〕		金属・布
1-2-11	第一期種痘済證	昭和5年6月5日	福岡県福岡市長代理助役 福井茂一(公印) →茂八郎長男 古城戸陽之助	一紙
1-2-12	第一期種痘済證	昭和11年6月7日	福岡県福岡市長→茂八郎二男 古城戸茂義	一紙
1-2-13	第二期種痘済證	昭和13年6月30日	福岡県福岡市長(公印) →茂太郎[ママ]長男 古城戸陽之助	一紙
1-2-14	〔袱紗〕 染抜「初傳」「光遜(花押)」、6-2と関連	〔昭和9年〕		絹布
1-3-2	軍隊手牒 古城戸茂八郎のもの、履歴等	〔大正7年12月1日〕	〔小〕林又七製	書冊(表紙布張)
1-3-3	〔備忘録〕 人員等書上	〔昭和期〕		書冊(表紙皮張)
1-3-4	〔日記〕	〔6月10日～10月24日〕		書冊(表紙布張)
1-3-5	昭和九年 昭和常用日記 古城戸茂八郎のものカ、男児誕生の記事等	昭和8年10月1日印刷、昭和8年10月5日発行	発行所 国民出版社	書冊
1-3-6-1	〔書簡〕 出征の激励文寄せ書き、1-3-6-1、3-6-2は包紙で一括	〔昭和12～14年〕	〔博済無尽株式会社〕福岡支店社員一同 他多数→古城戸茂八郎殿	継紙(包紙)
1-3-6-2	〔書簡〕 出征の激励文寄せ書き	〔昭和12～14年〕	〔博済無尽株式会社〕福岡支店一同 他多数→古城戸茂八郎殿	継紙
1-3-7	〔弔詞〕 3月26日靖国参拝の後の父・茂八郎への弔詞、前欠	〔昭和15年〕	西日本男子児童代表 福岡市警固尋常小学校六年生 古城戸陽之助	継紙(包紙)
1-3-8	〔覚〕 1月9日付福岡准尉宛通信、古城戸茂八郎戦死の状況報告	〔昭和15年〕		書綴
1-3-9	香典控帖	昭和15年1月15日	古城戸	長帳
1-3-10	〔弔詞〕 中隊第1小隊長・古城戸茂八郎の昭和14年12月30日梅抗で戦死の状況	昭和15年3月2日	中隊長 橋本喜蔵→古城戸とめ殿	継紙
1-3-11	〔弔詞〕 福岡支店から勤務時の古城戸茂八郎の思い出と戦死に対する悔やみ、前欠	昭和15年2月6日	市吉磯味→古城戸 御夫人様 外御家族一同様	継紙
1-3-12	〔弔詞〕 古城戸茂八郎戦死に対し	昭和15年5月5日	福岡市今泉財産区区議員代表 区区議長 白石重利→〔古城戸茂八郎〕	継紙
1-3-13	〔弔詞〕 古城戸茂八郎戦死に対し	昭和15年5月18日	博済無尽株式会社 取締役社長 伊藤傳右衛門→〔古城戸茂八郎〕	継紙
1-3-14	祭詞 古城戸茂八郎戦死に対し	昭和15年5月16日	福岡県国防会長 福岡県知事本間精	継紙
1-3-15	弔詞	昭和15年5月18日	福岡市若宮町西部総代 勲七等 一田彦次 →〔古城戸茂八郎〕	継紙

1-3-16-1	〔書簡〕 6月18日慰問袋受け取り(海苔罐破損)、南支の気候、「酒井様の親族の桶屋町の(欠)」、後欠、1-3-16-1～-3-16-19は一括	〔昭和14年〕	〔古城戸茂八郎〕	便箋
1-3-16-2	〔書簡〕 陽之助の進路について(剣道着の写真を見て喜ぶ)、茂義の病気について気遣い、送付希望の品等	〔昭和14年〕5月14日	茂八郎〔南支派遣長谷川部隊橋本隊 古城戸〕→とめ殿	便箋(封筒)
1-3-16-3	〔書簡〕 進藤氏福岡へ到着予定日(軍刀の帯革購入を依頼)等	〔昭和13年〕2月14日	茂八郎→とめ殿	便箋
1-3-16-4	〔書簡〕 婦人会寄贈の国旗は上陸合図のため使用したので礼を述べてほしい等	〔昭和13年〕1月23日午前2時10分	父ヨリ〔中支派遣小塚部隊市川隊 茂八郎〕→陽之助殿	古城戸 便箋(封筒)
1-3-16-5	〔書簡〕 10月12日上陸、22日広州入城、戦地の気候と9月24日上海からおくった便の確認等	〔昭和13年〕11月9日	茂八郎→とめ殿	便箋
1-3-16-6	〔書簡〕 軍刀附属品「ツリカワ」の購入依頼(図解あり)等	〔昭和14年〕5月24日	茂八郎→とめ様	便箋
1-3-16-7	〔書簡〕 南支の気候と、慰問袋を贈られたので礼を言っておいてとのこと	〔昭和14年〕2月4日	茂八郎→とめ様	便箋
1-3-16-8	〔書簡〕 進藤氏帰福について、家族の状況伺い	〔昭和13年〕3月21日	茂八郎→とめ様	便箋
1-3-16-9	〔書簡〕 「みきの事」について慰労と子供たちへの気遣い等	〔昭和14年〕4月12日	茂八郎〔南支長谷川部隊橋本隊 古城戸〕→とめ様	便箋(封筒)
1-3-16-10	〔書簡〕 戦地近況と4月12日送金の50円の入手確認等	〔昭和13年〕6月9日	茂八郎→とめ様	便箋
1-3-16-11	〔書簡〕 4月15日から湖州と杭州との間の地で警備等近況	〔昭和13年〕	茂八郎→とめ殿	便箋
1-3-16-12	〔書簡〕 陽之助の成長につき喜んで、12月には年末賞与が出る等	〔昭和14年〕12月9日	茂八郎→とめ殿	便箋
1-3-16-13	〔書簡〕 親族・知人の近況伺い等	〔昭和13年〕12月24日	茂八郎→とめ様	便箋
1-3-16-14	〔書簡〕 戦地近況(マラリヤに困っている等)	〔昭和14年〕7月12日	茂八郎→とめ殿	便箋
1-3-16-15	〔書簡〕 月隈の神社へ御礼参りの願い、自分が少尉になった噂に関し否定、慰問袋の受け取り等	〔昭和14年〕4月13日	茂八郎→とめ様	便箋
1-3-16-16	〔書簡〕 6月8日の小包受け取りと戦地近況等	〔昭和14年〕7月3日	茂八郎→とめ様	便箋
1-3-16-17	〔書簡〕 進藤氏「無言の凱旋」の件と戦地近況、戦闘囀の新調依頼等	〔昭和13～14年〕10月13日	茂八郎→とめ様	便箋
1-3-16-18	〔書簡〕 知人から慰問袋を贈られたので礼を言っておいてほしい	〔昭和13～14年〕7月24日	茂八郎→とおとめ殿	便箋
1-3-16-19	〔書簡〕 戦地近況(南支)と西田氏から慰問袋を贈られた件	〔昭和14年〕8月18日	茂八郎→とめ様	便箋
1-3-17-1	〔書簡〕 戦地近況、1-3-17-1～-3-17-17は一括	〔昭和13年〕3月21日	父より→陽之助様	便箋
1-3-17-2	〔書簡〕 5年生に進学の祝辞と戦地での活躍報告	〔昭和14年〕4月12日	父より〔南支派遣長谷川部隊橋本隊 古城戸茂八郎〕→陽之助殿	便箋(封筒)
1-3-17-3	〔書簡〕 学校の2学期の成績を知らせてほしい	〔昭和13～14年〕2月4日	父→陽之助殿	便箋
1-3-17-4	〔書簡〕 杭州に転地の予定と会社からの慰問袋受け取り、太宰府の中川氏も南京に来ていたはずだが会えなかった等	〔昭和13年〕	〔古城戸茂八郎〕→〔古城戸陽之助〕	便箋
1-3-17-5	〔書簡〕 進路について同意と、太宰府の五郎君の父の動静伺い等	〔昭和14年〕5月14日	父より→陽之助殿	便箋
1-3-17-6	〔書簡〕 博多から相良氏立ち寄り、恩賜の煙草を預けた件等	〔昭和12～13年〕9月12日	茂八郎〔長谷川部隊市川隊 古城戸〕→陽之助殿	便箋(封筒)
1-3-17-7	〔書簡〕 支那での小学校の様子等近況	〔昭和13年〕4月13日	父ヨリ〔中支派遣長谷川部隊市川隊 古城戸茂八郎〕→陽之助 房枝 茂義 殿	便箋(封筒)
1-3-17-8	〔書簡〕 「二中隊附ニナツタ 神様ニ参ツテ オタツネシテ下サイ」	〔昭和12年〕	〔古城戸茂八郎〕	一紙
1-3-17-9	〔書簡〕 成績を上げるため勉強することと、戦地近況等	〔昭和14年〕11月7日	父より〔南支派遣中村(次)部隊橋本隊 古城戸茂八郎〕→陽之助殿	古城戸 便箋(封筒)
1-3-17-10	〔書簡〕 4～5月の戦況等	〔昭和13年〕6月9日	父ヨリ→陽之助 房枝 茂義 殿	便箋
1-3-17-11	〔書簡〕 1学期の成績伺い等と南支の気候	〔昭和14年夏〕	〔古城戸茂八郎〕→陽之助殿	便箋
1-3-17-12	〔書簡〕 近況や絵葉書を送る予定等、封筒上書「最後ノ手紙」	〔昭和14年〕12月9日	父ヨリ〔南支派遣中村(次)部隊橋本隊 古城戸茂八郎〕→陽之助殿	古城戸 便箋(封筒)
1-3-17-13	〔書簡〕 寺崎氏住所を知らせてほしい等	〔昭和13年〕7月24日	父ヨリ〔中支派遣長谷川清部隊市川隊 古城戸茂八郎〕→陽之助 房枝 茂義 様	古城戸 便箋(封筒)
1-3-17-14	〔書簡〕 南支上陸後の戦地近況等	〔昭和13年〕	〔古城戸茂八郎〕→陽之助 房枝 茂義 様	便箋

1-3-17-15	〔書簡〕 写真受領について、絵葉書送付の受け取り伺い等	〔昭和13年〕7月12日	父ヨリ〔中支派遣長谷川清部隊小室部隊市川隊 古城戸茂八郎〕→陽之助 房枝 茂義殿	便箋(封筒)
1-3-17-16	〔書簡〕 息子たちへの注意や戦地近況等	〔昭和13~14年〕	父ヨリ→陽之助 房枝 茂義殿	便箋
1-3-17-17	〔書簡〕 2学期の成績等近況伺い	〔昭和13~14年〕	父→陽之助 房枝 殿	便箋
1-3-18	〔書簡〕 古城戸茂八郎戦功につき	〔昭和15年〕2月16日	〔中支派遣柳川部隊牛島部隊小塚部隊廣瀬部隊本部〕廣瀬清→〔古城戸トメ殿〕	便箋(封筒)
1-3-19	〔絵葉書〕 近況伺い(絵柄は門司税関波止場)	〔昭和12年〕10月9日	門司市新清滝町 古城戸茂八郎→福岡市若宮町 古城戸陽之助殿	葉書
1-3-20	〔封筒一括〕 在中物は1-3-16、3-17-4-26のいずれカ	〔昭和12~14年〕	〔古城戸茂八郎〕→〔古城戸陽之助〕	封筒
1-3-21-1	軍人遺族記章 1-3-21-1~ -3-21-3は封筒で一括(上書「靖國神社臨時大祭合祀者遺族参列手當」)	〔昭和17年〕	〔陸軍省〕→〔古城戸トメ〕	金属組紐(封筒)
1-3-21-2	〔記章〕	昭和17年10月		金属
1-3-21-3	軍人遺族記章授與證書 第4110号	昭和17年1月1日	陸軍省(公印)→故陸軍歩兵少尉 古城戸茂八郎妻 古城戸トメ	一紙
1-3-22	〔封筒〕 在中物無し	〔昭和9年〕5月28日	嘉穂郡大隈町久恒欽業所 山崎政大→福岡市大字今泉 古城戸茂八郎殿 至急親展	封筒
1-3-23	戦死情況報告 陸軍歩兵少尉古城戸茂八郎戦死の状況	昭和15年1月9日	歩兵第二十四聯隊長 陸軍歩兵大佐 中村次喜蔵	用箋
1-3-24	〔弔詞〕 古城戸茂八郎戦死に対し	昭和15年1月10日	大隊長 小山滋	用箋
1-4-1-5	〔円形略綬〕 封筒上書「靖國神社臨時大祭合祀者遺族参列手當」	〔大正~昭和期〕		金具・布(封筒)
1-4-2	〔肖像〕 古城戸茂八郎肖像(博多中西織)	〔昭和15年以降〕	贈呈 帰還部下一同	絹織物
1-4-3	〔人名録〕 「八幡市昭和町 大和馨」他82名の住所氏名、封筒上書「人名録」	〔昭和10年代〕		書綴(封筒)
1-4-4	〔絵葉書〕 近況と別に絵葉書送付の件(絵柄は「中興路 敵トーチカ 二十七日完全占領(高橋亮)」)	〔昭和13年〕9.21日	中支長谷川部隊市川隊 古城戸茂八郎→福岡市若宮町 古城戸陽之助殿	葉書
1-4-5	〔書簡〕 上海近況と勲7等瑞宝章拝受の年月日を問う、行軍風景の挿図有	〔昭和13年〕	中支派遣長谷川清部隊小室部隊市川隊 古城戸茂八郎→福岡県福岡市若宮町 古城戸陽之助殿	一紙
1-4-6	〔葉書〕 近況とシャツの配給に当たった件	〔昭和15~20年〕3月10日	福岡県福岡市若宮町 古城戸房江→香川県小豆郡測崎村若潮部隊七生隊之一 古城戸陽之助様	葉書
1-4-7	〔葉書〕 先日のり子氏が世話になった礼と、糸島の花子氏へのことづけ	〔昭和41年〕3月23日	前原町□ 馬場五郎、則子より→福岡市若前〔宮〕町 古城戸トメ様方 広川ハナ子様	葉書
1-4-8	〔葉書〕 「みんなで英霊を慰める祭」での献燈の礼と領収、祭典の案内	昭和40年7月16日	福岡市六本松一丁目一 福岡県護国神社→市内若宮町 古城戸トメ様	葉書
1-4-9	〔葉書〕 「みんなで英霊を慰める祭」での献燈の礼と領収、祭典の案内	昭和40年7月16日	福岡市六本松一丁目一 福岡県護国神社→市内若宮町 持永孝幸様	葉書
1-4-10	〔葉書〕 市遺族連合大祭への案内	〔昭和40年〕10月9日	福岡市警固本通 緒方啓一郎→福岡市若宮町 古城戸トメ様 児島トミ様	葉書
1-4-11	〔書簡〕 進藤君の父が戦死者の遺骨を内地に持ち帰る件等、行軍風景の挿図有	〔昭和13年〕	中支派遣小塚部隊市川隊 古城戸茂八郎→福岡市若宮町 古城戸陽之助殿	一紙
1-4-12	支那事變従軍 戦友名簿 戦闘略報掲載(昭和12年11月5日~13年12月21日)	〔昭和14年〕	第二中隊	書冊
1-4-13	〔弔詞〕 古城戸茂八郎戦死に対し	〔昭和15年〕1月15日	谷口兵作 他23名〔南支派遣軍久納部隊中村(次)部隊橋本隊 谷口兵作 外一同〕→古城戸とめ様	切紙(封筒)
1-4-14	〔「顕忠府」扁額写真〕 裏表の写真図版	〔昭和15年〕		一紙
1-4-15	野邊帖 古城戸茂八郎葬儀参列者名	〔昭和15年〕	古城戸	長帳
1-4-16	野邊帳 古城戸茂八郎葬儀参列者名	〔昭和15年〕	古城戸家	長帳
1-4-17	野邊帖 古城戸茂八郎葬儀参列者名	〔昭和15年〕	古城戸家	長帳
1-4-18	弔電控帖 古城戸茂八郎宛弔電差出人名	〔昭和15年〕	古城戸家	長帳
1-4-19	悔帖 古城戸茂八郎参拝者等人名	〔昭和15年〕	古城戸	長帳
1-4-20	古城戸茂八郎戦死供物控帳	昭和15年1月14日		長帳
1-4-21	大福帳 金銭書上、出征の際の寄付金カ	昭和12年第1月10日		長帳

1-4-22	〔刀剣押形一括〕 銘の説明、採拓年月日、採拓場所等	〔昭和8年〕	〔古城戸茂八郎〕	一紙
1-4-23	〔掛紙〕 「御短刀 大阪 月山近則」	〔大正～昭和期〕	朱印「官幣大社 宗像神社」→福岡 古城戸茂八郎殿	一紙
1-4-24	弔詞 古城戸茂八郎戦死に対し	昭和15年5月18日	帰還部下代表 陸軍歩兵軍曹 岩橋一郎	一紙
1-4-25	〔封筒〕 在中物無し	〔昭和15年〕	福岡県国防会→故古城戸少尉御霊前	封筒
1-4-26-1	〔書簡〕 福岡陸軍病院に入院中の加藤常雄軍曹の見舞に行くよう、1-4-26-1～4-26-5は一括	〔昭和13年〕6月22日	茂八郎→陽之助殿	便箋
1-4-26-2	〔書簡〕 12月10日朝の戦闘で中隊に死傷者が出たが、本人も進藤君の父も元気	〔昭和12年〕12月17日	父〔小堀部隊市川隊 古城戸茂八郎〕→陽之助君	便箋(封筒)
1-4-26-3	〔書簡〕 出征時も習字・綴方・図画等の能力が役立つためしっかり勉強しなさい	〔昭和14年〕7月3日	父〔南支長谷川部隊橋本隊 古城戸茂八郎〕→陽之助殿	便箋(封筒)
1-4-26-4	〔書簡〕 歯痛のためゲネーゼンを送ってほしい、今日は進藤准尉の中隊に行き煙草・片栗粉等をもたらした、等	〔昭和13年〕1月6日午後7時50分	杭州より 父→陽之助殿	便箋
1-4-26-5	〔書簡〕 真砂氏来訪の件と、歯の治療をしたので安心を、等	〔昭和13年〕2月14日	父ヨリ→陽之助殿	便箋
1-4-27	〔封筒〕 在中物無し	〔昭和13～14年〕	南支派遣中村(次)部隊橋本隊 古城戸茂八郎→福岡県福岡市若宮町 古城戸陽之助殿	封筒
1-4-28	〔葉書〕 「みんなで英霊を慰める祭」での献燈の礼と領収、祭典の案内	昭和40年7月16日	福岡市六本松一丁目一 福岡県護国神社→福岡市若宮町 馬場八十様	葉書
1-4-29	〔葉書〕 「みんなで英霊を慰める祭」での献燈の礼と領収、祭典の案内	昭和40年7月16日	福岡市六本松一丁目一 福岡県護国神社→市内若宮町 児島トミ様	葉書
1-4-30	〔葉書〕 「みんなで英霊を慰める祭」での献燈の礼と領収、祭典の案内	昭和40年7月16日	福岡市六本松一丁目一 福岡県護国神社→市内若宮町 深見サダ様	葉書
1-4-31	〔覚〕 白杵發と他4名の住所書上	〔昭和10年代〕		便箋
1-4-32	〔封筒〕 在中物無し	〔昭和期〕	福岡県飯塚市 博済無尽株式会社→古城戸茂八郎殿	封筒
1-4-33	〔書簡〕 古城戸茂八郎戦死のお悔みと、公私とも親しくしていた事等	〔昭和15年2月26日〕	市川加年男〔神奈川県座間町 陸軍士官学校生徒隊本部〕→古城戸トメ様	継紙(封筒)
1-4-34	〔書簡〕 防空演習中、暗闇の中誤って落下したがケガは無かった、太宰府内山のトリカヒ上等兵に助け起こされたので礼を言っしてほしい、等	〔昭和12年〕10月8日ゴゴ6時	〔門司市元清滝町 古城戸茂八郎〕父ヨリ→陽之助殿	郵便紙(封筒)
1-4-35-1	決算書 炭代・電燈料等計146円22銭、1-4-35-1、1-4-35-2は同折	〔昭和15年以降〕	西若宮町三ノ組長 竹内朝次(朱印)	一紙
1-4-35-2	〔受取書〕 位牌・引き伸ばし写真等85円90銭	〔昭和15年以降〕	西若宮町三ノ組長 竹内朝次(朱印)	一紙
1-4-36	町遺族台帳 戦没者遺族住所等一覧	〔昭和15年以降〕	→古城戸様	専用紙
1-4-37	〔賞状〕 叙正8位	昭和14年12月30日	宮内大臣従二位勲一等松平恒雄宣→勲七等古城戸茂八郎	一紙
1-4-38	〔辞令〕 任陸軍歩兵少尉	昭和14年12月30日	内閣総理大臣正三位勲一等阿部信行宣→陸軍歩兵准尉勲七等古城戸茂八郎	一紙
1-4-39	〔封筒〕 「昭和四十一年春季大祭御案内」記載	〔昭和41年〕	福岡県護国神社	封筒
2	牛島部隊将校並高等文官職員表	昭和12年10月1日調	牛島部隊本部調査	一紙
3-1	〔賞状〕 功5級に叙し金鶏勲章を授与、3-1～4は賞状筒で一括、1-2-6と対	昭和14年12月30日	賞勲局総裁従三位勲一等下條康磨(公印)→正八位勲七等古城戸茂八郎	専用紙(筒)
3-2	〔賞状〕 勲6等に叙し単光旭日章を授与、1-1-1と対	昭和14年12月30日	賞勲局総裁従三位勲一等下條康磨(公印)→正八位勲七等古城戸茂八郎	専用紙
3-3	〔賞状〕 勲8等に叙し瑞宝章を授与	大正9年11月1日	賞勲局総裁正四位勲二等伯爵兒玉秀雄(公印)→古城戸茂八郎	専用紙
3-4	〔賞状〕 勲7等に叙し瑞宝章を授与、1-2-7と対	昭和2年12月23日	賞勲局総裁従四位勲二等天岡直樹(公印)→勲八等古城戸茂八郎	専用紙
4-1	大禮記念章之證 大禮記念章を授与、4-1～4は賞状筒で一括、1-2-3と対	昭和3年11月16日	賞勲局総裁正四位勲二等天岡直樹(公印)→陸軍歩兵曹長勲七等古城戸茂八郎	専用紙(筒)
4-2	戦捷記念章之證 戦捷記念章を授与、1-2-5と対	大正9年11月1日	賞勲局総裁正四位勲二等伯爵兒玉秀雄(公印)→陸軍歩兵上等兵古城戸茂八郎	専用紙
4-3	支那事變従軍記章之證 従軍記章を授与、1-2-2と対	昭和14年12月30日	賞勲局総裁従三位勲一等下條康磨(公印)→陸軍歩兵少尉正八位勲七等 古城戸茂八郎	専用紙
4-4	大正三年乃至九年戦役従軍記章之證 従軍記章を授与、1-2-4と対	大正9年11月1日	賞勲局総裁正四位勲二等伯爵兒玉秀雄(公印)→陸軍歩兵上等兵古城戸茂八郎	専用紙
5-1	〔給与辞令〕 給1等給、5-1～5は賞状筒で一括	大正10年6月1日	公印「歩兵第二十四聯隊」→陸軍歩兵伍長古城戸茂八郎	専用紙(筒)

5-2	〔給与辞令〕 給3等給	大正11年4月21日	公印「歩兵第二十四聯隊」→陸軍歩兵軍曹古城戸茂八郎	専用紙
5-3	〔賜金辞令〕 金3000円を賜う、端裏「昭和十六年一月二日」	昭和15年9月2日	公印「陸軍省印」→故陸軍歩兵少尉古城戸茂八郎妻 古城戸トメ	一紙
5-4	〔賞状〕 功5級金鷄勲章並びに年金350円及び勲6等単光旭日章を授与、1-1-1-2-6,3-1-2と関連、端裏「昭和十六年五月十日」	昭和14年12月30日	賞勲局總裁従三位勲一等下條康麿(公印)→陸軍歩兵少尉正八位勲七等 古城戸茂八郎	一紙
5-5	〔賜金辞令〕 金850円を賜う	昭和14年12月30日	賞勲局總裁従三位勲一等下條康麿(公印)→陸軍歩兵少尉正八位勲七等 古城戸茂八郎	一紙
6-1	〔社員辞令〕 正社員に列す、6-1-2は賞状筒で一括、1-2-9と対	昭和3年10月18日	日本赤十字社總裁 大勲位功二級載仁親王(公印) 日本赤十字社社長 正二位勲一等男爵平山成信(公印)→勲七等古城戸茂八郎	専用紙(筒)
6-2	〔免許状〕 刀剣鑑定道において初伝を免許、1-1-3-2-14と関連	昭和9甲戌年7月日	本阿弥光遜(花押)→古城戸茂八郎殿	折紙
7-1	賞状 中隊特別射撃において優秀の成績につき表彰、7-1～-3は賞状筒で一括	大正9年7月24日	歩兵第二十四聯隊第一中隊長 陸軍歩兵大尉正七位勲六等脇屋義城(公印)→歩兵第二十四聯隊第一中隊 陸軍歩兵上等兵 古城戸茂八郎	専用紙(筒)
7-2	賞状 大隊剣術試合において優等の成績につき表彰	大正10年2月22日	歩兵第二十四聯隊第一大隊長 陸軍歩兵少佐正六位勲四等平野晴次郎(公印)→歩兵第二十四聯隊第一中隊 陸軍歩兵伍長 古城戸茂八郎	専用紙
7-3	賞状 連隊特別射撃において優等の成績につき表彰	大正11年5月18日	歩兵第二十四聯隊長 陸軍歩兵大佐従五位勲三等功五級河野銚次郎(公印)→歩兵第二十四聯隊第一中隊 陸軍歩兵軍曹 古城戸茂八郎	専用紙
11	〔肖像写真〕 古城戸茂八郎、軍服姿	〔昭和13～14年〕		一紙(額装)

太宰府市文化ふれあい館所蔵分

番号	資料名	年月日	作成・宛所	形態
1	〔絵画〕 「遺族靖國神社昇殿参拝 伯謹筆」、1～3は筒で一括	〔昭和15年以降〕	陸軍恤兵部発行 凸版印刷株式会社謹製	一紙(筒)
2	〔絵画〕 「徐州會見」	〔昭和15年以降〕	陸軍省発行	一紙
3	〔絵画〕 「天皇陛下靖國神社御親拝 早田三四郎 畫伯謹筆」	〔昭和15年以降〕	陸軍恤兵部発行 凸版印刷株式会社謹製	一紙
4	〔陸軍肩章〕 軍曹、4～8は一括	〔大正10年〕		金具・布
5	〔陸軍肩章〕 准尉	〔昭和12～14年〕		金具・布
6	〔陸軍襟章〕 准尉	〔昭和12～14年〕		金具・布
7	〔略綬板〕 大正3年乃至9年戦役従軍記章・戦捷記章・昭和大礼記念章	〔昭和3年以降〕		金具・布
8	〔認識票〕 「歩一二四 准尉 古城戸茂八郎」、紐付き	〔昭和12～14年〕		真鍮
9	〔弁当箱〕 古城戸茂八郎使用カ	〔大正～昭和期〕		アルミ製
10	〔水筒〕 古城戸茂八郎使用カ	〔大正～昭和期〕		アルミ製・布製
11	〔写真〕 大名小学校における陸軍弔魂祭(兵員整列)、台紙付き	〔昭和15年以降〕		一紙
12	〔写真〕 大名小学校における陸軍弔魂祭(玉串・参列者着席)、台紙付き	〔昭和15年以降〕		一紙
13	〔写真〕 「聖上陛下靖國神社に御親拝 昭和十四年十月二十日靖國神社臨時大祭」	〔昭和14年以降〕	朝日新聞社謹製	一紙
14	平和の礎 大東亜戦絵画美術史 15～17は見開きに挟み込み	昭和41年4月15日印刷 昭和41年4月20日発行	発行所 社団法人日本郷友連盟	書冊(函)
15	〔案内状〕 画集「平和の礎」購入のお願い、15～17は封筒で一括	〔昭和40年代〕	社団法人日本郷友連盟 会長 後宮淳(公印)→全国運輸農業協同組合連合会仙台支所支所長 古城戸陽之助殿	切紙(封筒)
16	依頼状 画集「平和の礎」購入のお願い	〔昭和40年代〕	社団法人日本郷友連盟宮城県郷友会長 東海林俊成→全国運輸農業協同組合連合会仙台支所支所長 古城戸陽之助殿	切紙
17	〔名刺〕 「電話で失礼申上ました。何卒よろしくお願ひ申上ます」	〔昭和40年代〕	社団法人日本郷友連盟編集部 山本茂(朱印)→古城戸様	一紙

※この表での番号は、当館が便宜的に付したものである。